よいことのためにに手を取りあおう

2025～2026

THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名古屋みなと

承　認　1966 年　5 月 12 日 例会日 金曜日 12：30
例会場　名古屋マリオットアソシアホテル
事務局　TEL 052-221-7020　FAX 052-221-7023
E-Mail office@portnagoya-rc.com
URL http//www.portnagoya-rc.com
会　長　室原　國彦　　幹　事　沼野　明
公共イメージ向上委員長　小椋 由美子

THE MAGIC OF ROTARY　ロータリーのマジック　R.I. 会長 フランチェスコ・アレッツォ

第 2764 回例会　№20
2026 年(令和 8 年)1 月 16 日(金)　晴
「我らの生業」

出席報告

会員 66 名中　52 名　　出席率　78.79 %
〇スピーカー　認知症の人と家族の会愛知県支部会員
高井　隆一様
〇ゲスト　　安藤鐵工所　代表取締役　安藤　雅彦様

会長挨拶　　室原　國彦さん

皆さんこんにちは。本日のゲストは、安藤雅彦様と後ほど卓話をして頂きます高井隆一様にお越しいただいております。ごゆっくりお過ごし下さい。

今月 1 月 27 日はロータリー創立者ポール・ハリスの命日です。よって、ロータリー創立メンバー4 人のお話をします。

1905 年 2 月 23 日シカゴ。当時のシカゴは、急成長中ながら孤独感が強い都市でした。1 人の弁護士、ポール・ハリスが、シカゴに移り、弁護士として開業します。ポールは「本当の友情を築ける仲間が欲しい」という思いから、仲間と共に、1905 年に最初のロータリークラブを創立します。その想いから、3 人の友を誘ったのがロータリーの始まりです。その 3 人にも、それぞれ実に味わい深い特徴があります。

まず、最初の例会場所を提供したのが、鉱山エンジニアのガスターバス・ローア。実務家で、合理的で、アイデアマン。最初の会合の場所、「ユニティビル７１１」を提供した、ロータリアンです。初期メンバーとしての名誉は高いが、創立から 10 年足らずで亡くなられています。次に、葬儀業を営んでいた シルベスター・シール。当時は、葬儀業は非常に尊敬される職業だったそうです。ポールが、深く信頼し、落ち着いた人柄で、誠実そのもの。初代会長を託した“大きな心”の持ち主でした。ポールが「友情の輪を広げたい」と語った際、真っ先に賛同したのがシールです。ポールのお墓の近くに、シールのお墓もあるそうです。そして、洋服仕立て屋のハイラム・ショーレー。創立メンバーでありながら、数回の例会出席で退会してしまった幻のロータリアン。そして最後に、今日の、この日に、改めて思いを寄せる ポール・ハリス。人見知りで、控えめで、でも「人が笑顔でつながる未来」を誰より信じた人。彼はこう言いました。「ロータリーは友情から始まり、奉仕へと向かう！」と。

実は、ロータリーの奉仕の原点は、立派な理念ではなく、仲間の笑顔を見て、自分も嬉しくなった“共感”でした。それは、今年度の私たちのテーマ「Your smile is my smile　喜ばれることに喜びを」とまったく同じ精神です。

創立から 119 年――。シカゴの小さな部屋から始まったロータリーは、今や世界中で笑顔をつくる大きな運動になりました。そして、その流れは、名古屋みなとロータリークラブの創立 60 年にも確かにつながっています。ポール・ハリスの命日にあたり、私たちも原点を思い出しましょう。ポール・ハリスの志に、静かな感謝を込めて、本日の会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

認証伝達

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー＋1
水谷　隆さん
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー＋1
加藤　嗣郎さん

委員会報告

『ロータリーの友について』
公共イメージ向上委員会　委員長　小椋 由美子さん

皆さん、こんにちは。公共イメージ委員会委員長の小椋です。

2026 年 1 月号の『ロータリーの友』より、印象に残った 4 つの内容をご紹介します。

まず一つ目は、裏表紙に掲載されている「白米千枚田」の能登応援ポスターです。石川県の河北ロータリークラブの高井氏による作品で、当クラブが創立 60 周年事業として応援する場所を描いたスケッチとなっています。シンプルながら味わい深く、思わず見入ってしまう素敵な作品です。

二つ目は、横書き 5～11 ページの記事です。輪島塗の製造販売に携わる若手 5 名が、海外市場の動向を学ぶために渡米した取り組みが紹介されています。能登半島地震や豪雨災害を受け、グローバル補助金を活用し、物品支援ではなく「人」を育てる形で復興を後押しするという視点に、深く感銘を受けました。伝統を未来へつなぐ素晴らしい事例だと思います。

三つ目は、横書き 18～21 ページの「ワークウェア例会」の記事です。福島ロータリークラブが創立 75 周年を迎えるにあたり、会員がそれぞれの仕事着で例会に参加するというユニークな取り組みが紹介されています。職業観が伝わり、とても面白い内容でした。当クラブでも実施したら楽しそうだと感じました。

最後は、縦書き 51 ページの「あるある相談室」です。「手に手をつないで」に関する価値観の違いが紹介されており、人それぞれの考え方があるものだと改めて感じました。当クラブでは例会が握手から始まるだけに、興味深く読ませていただきました。

以上、今月号の見どころです。ぜひご一読ください。

ニコ BOX

(高井様、本日卓話よろしくお願いします。楽しみにしています)　室原会長
(ゲストでお越しの安藤様、ようこそお越し下さいました。ごゆっくりお楽しみ下さい。高井様本日の卓話宜しくお願い致します。)　沼野幹事
(ニコニコ DAY)　52 名

本日合計　115,510 円
累　　計　1,436,776 円

幹事報告

【100 万ドルカレーについて】
「100 万ドル食事の日（ミリオンダラーミール）」は、ロータリー財団への支援を目的とした募金活動の一つです。この取り組みは、例会等で提供される食事を簡素化、または省略し、その食事代相当額を寄付に充てることで、会員一人ひとりが無理なく奉仕活動に参加できることを目的としています。日常の食事を通じて奉仕の心を形にする、ロータリーらしい取り組みとして、本活動へのご理解とご協力をお願いいたします。
【掲示物】
★出欠リスト
・2 月 12 日(木)　何でもやってみる同好会『美味しい魚を頂く会』
【配布物】
・ロータリーの友 1 月号
・2 月 27 日開催　F グループ家庭集会のご案内
・本日卓話 講演レジュメ
（認知症の人と地域で共に生きるために）

卓話

「認知症の人と地域でともに生きるために」
認知症の人と家族の会愛知県支部会員
高井 隆一様

本日はこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。私は認知症の専門医でも研究者でもありません。アルツハイマー型認知症を患った父を 7 年間介護した、一人の家族としての立場からお話をさせていただきます。

父は、国立長寿医療研究センターでアルツハイマー型認知症と診断されました。認知症のうち約 8 割がこのアルツハイマー型だと言われています。身体機能は比較的保たれ、父も亡くなる直前まで自力で歩くことができていましたが、記憶障害は深刻で、「今起きた

出来事を瞬時に忘れる」状態が続いていました。

アルツハイマー型認知症の特徴として、強い不安があります。よく「恍惚の人」という表現がありますが、実際には決して穏やかではありません。父は「ここは自分の家ではない」「帰らなければならない」と夕方になると繰り返し訴え、どこにいるのか分からない不安の中で日々を過ごしていました。

認知症の根治薬は、世界中の製薬会社が莫大な費用を投じて研究を続けていますが、いまだ実用化には至っていません。発症の 10 年、20 年前から脳内に異常なタンパク質が蓄積するとされ、治療の難しさがそこにあります。

私は東京で生活していましたが、父の介護のため妻が別居して対応していました。ある冬の日、父は突然行方不明になり、大府駅の隣の共和駅構内の線路で列車事故により亡くなりました。大きな衝撃の中、半年後に鉄道会社から約 720 万円の損害賠償請求を受け、裁判へと発展しました。

この裁判は最高裁まで争われ、「認知症による事故について、家族に一律の監督責任を問うことはできない」との判断が示されました。この判決は社会に大きな影響を与え、認知症をめぐる法制度や支援施策が前進する契機となりました。

ここでお伝えしたいのは、「徘徊」という言葉についてです。認知症の人は、目的もなく歩き回っているわけではありません。多くの場合、過去の記憶に基づいた明確な目的があります。父も「農協へ働きに行く」と言って外出していましたが、それは 40 代の頃の記憶に基づく行動でした。

現在では行政や報道においても「徘徊」という言葉は使われなくなり、「ひとり歩き」など、より配慮した表現に置き換えられています。言葉を変えることは、認知症の人の尊厳を守る第一歩です。また、地域で認知症の人とともに生きるためには、「認知症であることを隠さない」ことが重要だと感じています。父は名札を身につけていましたが、当時は認知症への理解が十分とは言えず、誰からも声をかけられることなく駅へ向かってしまいました。

現在は認知症サポーターが全国で 1,600 万人を超えています。今であれば、声をかけてもらえた可能性があったかもしれません。私はその思いから、大府市とともに「認知症ヘルプマーク」の普及にも取り組んでいます。災害時や日常生活の中で、周囲が気づき、配慮できる仕組みが必要です。

最後に、認知症の方への声かけについてお話しします。いきなり「大丈夫ですか」と聞くのは勇気がいります。私が実践しているのは、「今日はいい天気ですね」と、天気の話から入ることです。これなら自然に会話が始まり、もし違ってもその場を離れることができます。

認知症の方は、不安の中で生きています。たった一言の声かけが、その不安を和らげることにつながるかもしれません。今日のお話を通じて、地域で共に生きるための小さな一歩を、皆さまと共有できれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

月	日	今後の例会予定
1	23	**卓話** **17F「コスモス」** 「身近な「たまご」をもっと知って欲しい ～ニッチな「たまご事業」のご紹介～」 三州食品グループ 代表取締役社長 岩月顕司様（名古屋北ロータリークラブ）
	30	**休会**
2	6	**港友例会** **17F「コスモス」**
	13	**休会**
	20	**例会変更** 2/18(水) 西名古屋分区 IM ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋 16：00～20：00（受付 15：00～）
	27	**卓話** **17F「コスモス」** 名古屋掖済会病院看護師　休石 直美様
3	6	**港友例会** **17F「コスモス」**
	13	**卓話** **51F「シリウス」** 株式会社押村商会代表取締役押村 宣広様
	20	**休会**
	27	**卓話** **17F「コスモス」** 株式会社浜木綿　代表取締役社長 林永芳様（名古屋千種ロータリークラブ）